

平成27年度研究成果報告書《平成26年度指定教育課程研究指定校事業》

都道府県・ 指定都市番号	17	都道府県・ 指定都市名	石川県	研究課題番号・校種名	3(4) 中学校
				領域名	E S D
研究課題	新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名(児童・生徒数)	かなざわだいがくにんげんしやかいがくいきがっこうきょういくがくるいふぞくちゅうがっこう 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校(471人)				
所在地(電話番号)	石川県金沢市平和町1丁目1番15号(076-226-2121)				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futyu/				
研究のキーワード	E S D, 思考力・判断力・表現力等の育成, 教科間のつながり, カリキュラムマップ				
研究成果のポイント	○E S Dの視点で、実際に実施した授業をカリキュラムマップにまとめることができた。それに対応した実践事例は50件、教材の「つながり」を持ったユニットは18ユニット完成し、E S Dを学校全体で体系的に推進する足がかりができた。 ○生徒アンケートの結果より、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」について、4月から11月にかけて10%程度の肯定的意見の伸びが見られた。また、具体的にこの授業でこのような力が付いたという記述も見られた。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力の育成
 ～教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して～

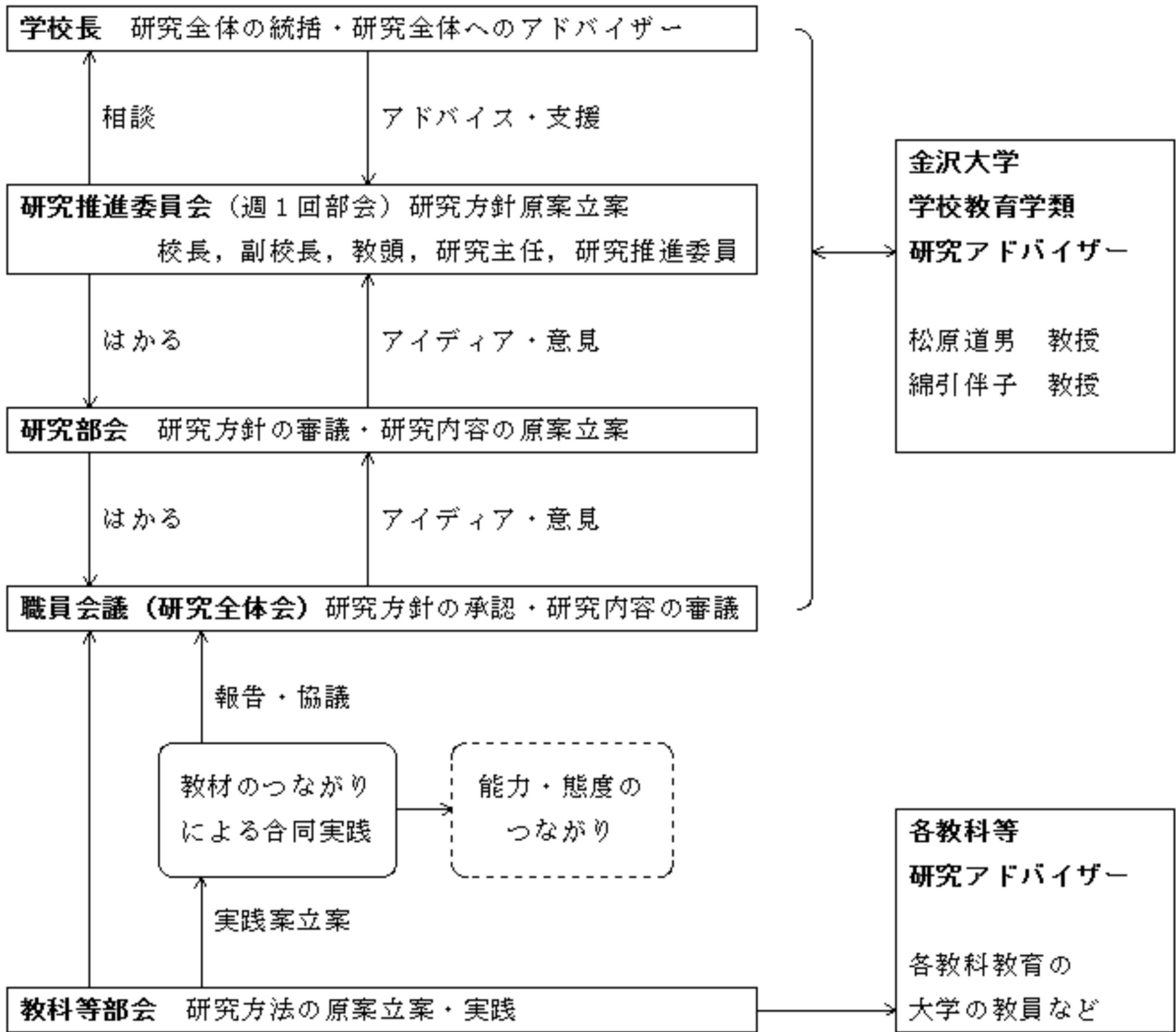
(2) 研究主題設定の理由

次に示す本校の課題意識や研究成果を踏まえ、E S Dの推進に当たり、各教科等の実践を柱に、教材の「つながり」や能力・態度の「つながり」を学校全体のカリキュラムに位置付けるなどして体系的に行えば、持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力を育成するモデルケースとして成果をあげることができると考え、研究主題として設定した。

〔課題意識〕本校の教育目標は「自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する」である。これはE S Dの視点に立った学習目標「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う」ことと深く関わっており、E S Dの研究を進めることで本校の教育目標にも迫れること。

〔研究成果〕本校はこれまでに「問題を解決するための思考と手立て」についての研究を進めており、各教科等の思考力・判断力・表現力等とE S Dとの関連を考えながら研究を進める素事ができていること。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESDについての学習会 (松原教授4月, 綿引教授7月, ESD-J理事鈴木克徳氏8月) ・ 能力・態度に関する生徒アンケート実施 (5月, 11月) ・ 金沢大学の先生を助言者としたESDに関する研究授業 (6月全教科等, 10月保健体育科, 12月社会科) ・ 教材の「つながり」を目指したワークショップ (6月, 7月, 8月) ・ 国立教育政策研究所 (以下, 国研という) 担当官を招いての研修会・研究授業 (7月) ・ 国研担当官を講師とする教育研究発表会開催 (11月) ・ 国研「教育課程研究センター関係指定事業研究協議会」にて研究成果を発表 (2月) ・ 研究紀要刊行 (3月)
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育てたい能力・態度の共通理解を図るワークショップ (4月) ・ ESD週間マイベストの実施 (4月～10月) ・ 能力・態度に関する生徒アンケート実施 (4月, 11月) ・ 金沢大学の先生を助言者としたESDに関する研究授業 (5月社・理・美, 6月国・保・英, 7月数・音・家, 6月は国研担当官を招いての研修会を含む) ・ 教材の「つながり」, 及び, 能力・態度の「つながり」を目指したワークショップ

(4月, 5月, 7月)

- ・国研担当官を講師とする教育研究発表会開催(11月)
- ・国研「教育課程研究センター関係指定事業研究協議会」にて研究成果を発表(2月)
- ・研究紀要刊行(2月)

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

次の三つの柱を基に研究を進めた。

- ①教材の「つながり」を図るために、E S Dに関わって各教科等が連携して実施した授業を位置付けたカリキュラムマップを作成し、実現可能なカリキュラムの編成に努める。
- ②能力・態度の「つながり」を図るために、E S Dと各教科等の思考力・判断力・表現力等との関連を一覧表にまとめ、各教科等が連携して能力・態度の育成に当たる。
- ③E S Dに関連した授業実践をE S D実践事例として記録し、授業内容を振り返るとともに、授業作りの改善に役立てる。

(2) 具体的な研究活動

①-1 各教科等の年間指導計画の掲示とE S D週間マイベストの実施

各教科等の年間指導計画を全職員の見える場所に掲示した。また、E S Dに関連し、他教科等とつながることができそうな授業を行った際、そのアイデアを該当教科の年間指導計画の下に貼り、教材の「つながり」を図るアイデアのやりとりに生かした。

①-2 教材の「つながり」を図るワークショップの開催とカリキュラムマップの作成

E S Dの授業に関するアイデアを付箋に書き出し、グループ化するワークショップを開催し、それらを10の分野に分類した。また、内容のつながりが強く、連携して授業実践できそうなグループを「ユニット」とし、縦軸に分野、横軸に3年間の時系列をとった「カリキュラムマップ」上に、実践のあった「ユニット」を位置付け、E S Dに関連する学校全体のカリキュラムが見えやすくなるようにまとめた。

②-1 能力・態度に関するアンケートの実施と本校生徒の実態把握

E S Dに関して育てたい能力・態度の共通理解を図るワークショップを開催し、それを基に生徒向けアンケートを作成し、4月と11月に実施した。教員が育てたい力の共通理解を図るとともに、生徒の実態を把握することで、E S Dの授業実践に生かしていった。

②-2 教科等の思考力・判断力・表現力等との関連を表した一覧表の作成

E S Dと各教科等が考える思考力・判断力・表現力等との関連を一覧表にまとめ、それぞれの教科等の視点から、特に「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」をどのように育成するかを共通理解を図った。

③-1 小グループでの研究授業の実施とそのグループでの授業整理会の開催

一度に三つの教科等が研究授業を行い、研究授業の延べ回数を増やすとともに、それぞれの参加人数を6人～8人に絞ることで、授業整理会での意見交換がしやすくなるようにした。また、それぞれのグループで出た意見を全体で共有した。

③-2 カリキュラムマップとの整合性を図った実践事例の作成

E S Dに関する授業実践を、実践事例という共通の書式にまとめ、それぞれの授業の見直しと他教科等がつながる新たな授業を生み出すきっかけとした。また、カリキュラムマップとの整合性を図り、年度が変わって授業者が代っても、新たな工夫を加えながら、同じ時期に、同じ題材で授業を行うことができるようにした。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- E S Dを学校で体系的に推進することに当たっては、実際に実践した授業をカリキュラムマップに位置付けることで、カリキュラム開発を進めることができた。それに対応した実践事例は50件、教材の「つながり」を持ったユニットは18ユニット完成した。
 - 能力や態度を児童生徒に身に付けさせることについては、4月と11月に実施した生徒向けアンケートの結果を比較することで、能力・態度の伸長具合を判断した。
 - 「他者の意見を踏まえて自分の意見を建設的に述べることができる。(批判的に考える力)」が、できていると答えた生徒が83%から93%に増加した。
 - 「過去や現在の情報に基づいて、将来を予想・予測することができる。(未来像を予測して計画を立てる力)」が、できていると答えた生徒が81%から89%に増加した。
 - 「学校の学習内容と実生活や身の回りの環境とのつながりを考えることができる。(多面的・総合的に考える力)」が、できていると答えた生徒が76%から85%に増加した。
 - 「自分の気持ちや考えをうまく人に伝えることができる。(コミュニケーションを行う力)」が、できていると答えた生徒が78%から84%に増加した。
- また、生徒の自由記述からも考察した。
- ・音楽、国語、社会といった様々な教科から「能」という一つのものを見る授業によって、いろいろな側面から考えることができるようになった。
 - ・理科と技術のつながりを知ったことで、使いやすさと環境のつながりを考えることが少しでもできるようになった。
 - ・小学校では一部の人の意見で物事を進めていたが、体育のダンスの授業では誰かが提案したものを全員で議論したり、全体の意見を聞いて計画を立てられるようになった。
- このように、具体的にどういった授業でどういう力が付いたか、という記述もあり、教材の「つながり」や能力・態度の育成を意識して授業を行った成果が一部に出ていると考えられる。

(2) 課題

- 各ユニットの授業が適切であったかどうか、教員が振り返りを行うことが十分できていない。資質・能力の育成と関連付けたカリキュラムマップの完成を目指すことと、それぞれの授業のさらなる改善を行うことが課題である。
- 生徒アンケートの結果比較より、「人やもの、社会、自然などと自分とのつながりを大切にしようとしている。(つながりを尊重する態度)」は、できていると答えた生徒が86%から87%で微増であった。他の項目は全て肯定的意見が5%~10%増加していることを踏まえると、自分との「つながり」を大切にせる態度の育成に関しては課題がある。
- 生徒向けアンケートの自由記述に「力が付いたと思われない」という記述もあることから、具体的に付けたい力とその方策について、教員がさらにE S Dを意識して授業改善に取り組むことが課題である。

(3) 指定期間終了後の取組

- ・持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力を育成するために、どの能力や態度をどのようにして付けさせるかという視点でそれぞれの授業を見直し、授業改善を図る。
- ・教員が意識して取り組んだ結果、どのような資質・能力が生徒に身に付いたか、生徒アンケートだけでなく、各教科等の視点から教科の目標や教科で育てたい力との関係性を考え、検証を行う。
- ・上記のことを踏まえ、E S Dの視点で学校全体のカリキュラムを再編し直す。